

## 延岡市立恒富中学校の学力向上への取組

### 1 平成17年度の本県の学力調査及び意識調査から見た課題

#### (1) 学力調査結果からの課題

- 理科における科学的な見方・考え方の育成と実験技能の定着
- 全教科にわたる基本的学習内容の定着

#### (2) 意識調査からの課題

- 生徒の学習に関する実態分析や教師側の指導法の改善
- 家庭学習の習慣化とその内容の充実

### 2 学力向上に向けた課題解決への具体的な取組

#### (1) 学力向上に向けた経営方針

- 生徒の学力を向上させるための手立てを、「学習指導方法の工夫改善」と「家庭学習の充実」の2つの観点からとらえ、それぞれの観点について研究班を立ち上げ、その班で現状分析・対策検討を行い、実施案に沿って各学年や各教科で実践していく。
- 小中連携（恒富小・西小・恒富中）を基盤とした基礎学力の習熟と家庭学習の習慣化を目指した授業研究会や協議会の充実を図り、連携体制をさらに強化する。

#### (2) 教育課程内の取組

- 理科授業において、実験で起きた現象についての考察に時間をかけ、その原因や過程を科学的に分析させ、正しい用語を使って要領よく説明できるように指導した。
- ワークシートを使った実験レポートを作成させ、具体的な実験のスキルを身に付けさせるとともに、実験の必要性について理解させ、科学的な技能・知識の定着を図った。
- 実験器具の基本的な操作方法についての小テストを実施し、繰り返して何回も覚えなおすことで学習内容を理解させた。
- 各教科で標準学力テストの結果を分析し、生徒の不得意な部分とその原因を考察するとともに、指導方法の改善や具体的な対策について検討した。
- 全職員で研究授業を行い、教科の指導方法の工夫をお互いに学び合うことで良質な授業のあり方についての共通理解をもつことができた。
- 小学校と連携して小中学校の学習内容の関連や系統的な指導方法についての研修を深めることができ、今までよりもきめの細かい丁寧な授業についてのビジョンをもつことができた。

#### (3) 教育課程外の取組

- 全学年で家庭での勉強方法についての実態調査を行い、家庭学習の問題点や改善すべき点を明らかにし、発達段階に応じた学習方法のあり方や教科の特性を踏まえた家庭学習の進め方について協議した。
- 実態調査の結果と延岡市常任研発行の学習の手引きを基盤にした「家庭学習の手引き」を作成し、各教科での家庭学習の具体的な方法の提案と、実態調査で明らかになった食育についての資料も掲載して全家庭に配付した。
- 学年で朝自習の時間の使い方を検討し、国語・社会・理科・英語・数学のプリント学習を計画的に実施し、各教科の基本的事項の復習や苦手な単元内容の強化を図った。また、さら

に基礎的内容を定着させるために全教室に2名以上の教師を割り当て、苦手意識をもつ生徒の個別指導に当たった。

- 学年で毎週金曜日の帰りの会に週末テストの時間を設定し、漢字・英単語・計算の基礎的な問題を解かせ、不合格者は個人的に指導した。

#### (4) 保護者・家庭・地域との連携

- 参観日に学校評議員や区長さん方にも声をかけ、保護者や地域の方々に学校を開放することで、風通しの良い開かれた学校を目指した。
- 家庭学習の習慣化を目指した宅習指導や生活ノートの返信、さらに学級通信や学年通信の発行など家庭との連携を強化して学習習慣の育成を図った。

### 3 成果と課題（今後の取組を含む）

#### (1) 成果

- 実験器具の小テストは定期的実施でき、全体的に学習内容の定着を図ることができた。
- 朝自習のプリント学習は生徒が集中して取り組み、早く終わった生徒は進んで読書をするなど学習意識の改善が見られた。
- 朝自習の個別指導では生徒の小さなつまづきが解消され、わずかではあるが確実に学力向上が図られている。
- 週末テストへの取組に個人差があったが、不合格者が徐々に減ってきた。今後はその効果的な個別指導の方法を考えていきたい。
- 各教科で標準学力テストや基礎学力調査・県テストなどの考察から生徒の苦手領域を把握し、すぐにその対策を教科で検討し、授業方法の改善や補充プリントの作成など素早く対応することができた。
- 研究授業については予定通り実施され、各教科で指導方法の改善がなされている。今後は指導技術を向上させる方法や良質な実践例・資料などを収集し、いつでも検索できるようにライブラリー化し整理したい。
- 小学校との連携では定期的に合同研修会をもつことができ、職員間の交流も盛んになってきている。特に小学校高学年と中学校1年生の各学校の職員の情報交換や生徒の実態把握・指導方法の検討など同じ児童生徒を育てる教師集団としての連帯意識が育ってきている。今後は小中9年間を見通した教科経営や総合的な学習の時間・英語教育・コンピュータリテラシーのあり方など多面的な観点から教育計画をとらえていきたい。
- 学習の手引きについては、各学年での実態把握・分析をもとに、各教科での学習の意義や勉強の効果的な進め方など実践にすぐに役立つような書き方でまとめることができた。今後はこの手引きを有効活用するための方法を検討し、各学級での家庭学習指導や各教科でのノート指導・予習復習の指導など、家庭学習と授業の融合が図られるように研究を深めたい。
- 家庭との情報交換は参観日や学校行事はもとより、学級通信や生活ノートを利用して常時行われており、保護者の関心も高い。今後は家庭での学習だけでなく、進路学習や食育の面からも家庭との連絡を緊密にし、さらに安定した協力体制を築いていきたい。

#### (2) 課題

- 理科授業における考察の時間は確保できたが、ワークシートの記入など自分の言葉でまとめるところで個人差があり、まだ不十分であった。
- 朝自習プリントや週末テスト・小テストなどプリント作成・印刷・配付が煩雑になっており、計画的に実施する必要がある。